

## 平成 30 年度 第 3 回「伊勢志摩定住自立圏共生学」運営会議議事録

【日 時】平成 30 年 9 月 20 日（木）18 時～18 時 40 分

【場 所】皇學館大学 9 号館 1 階 小会議室

【出席者】（伊勢市）辻情報戦略局参事・企画調整課長（鳥羽市）岩井企画財政課副参事（明和町）朝倉防  
災企画課主幹

（三重銀総研）別府調査部長

（大学）齋藤教授、筒井教授、板井准教授、近藤准教授、千田准教授、池山助教、木村局長、森  
企画部長、梅川地域連携推進室員

\*欠席 （志摩市）澤村政策推進部参事（玉城町）田間副町長兼総合戦略課長（度会町）中井まちづくり  
推進課長（大紀町）田中企画調整課長（南伊勢町）柳原行政経営課長

（大学）笠原教授

【議 題】

### 1. 『伊勢志摩定住自立圏共生学』教育プログラムの行政チャンネルを利用した番組制作、配 信について

齋藤教授より説明がなされた。

- ・鳥羽市「離島と定住」番組完成。本日 DVD 配付
- ・今後制作予定の明和町、志摩市のご協力をお願いしたい。

審議の結果、異議なく了承された。

### 2. 『伊勢志摩定住自立圏共生学』教育プログラム秋学期開講科目について

齋藤教授より配付資料を基に説明がなされた。

#### 伊勢志摩定住自立圏共生学

- ・履修人数 科目Ⅱ：90 名、科目Ⅲ：53 名。履修登録期間が 9 月 21 日～10 月 3 日迄あるので、若  
干増加するのではないかと考えている。

#### 伊勢志摩共生学

- ・第 15 回（1/17）伊勢市鈴木市長に講義いただく。

#### 伊勢志摩共生学実習

- ・秋学期開講は 5 クラス。
- ・今年度まで共生学実習は履修者数 5 名を下回る授業についても開講してきたが、次年度以降は通常科目  
の位置付けになり、5 名を下回ると不開講の扱いとなる可能性がある。このため、共生学実習につい  
ては A、B の 2 科目に絞り、内容に応じてクラス分けて対応したいと考えている。

（板井准教授から補足説明）

- ・共生学実習について。

履修者数目標数値（50 名）に達していない点もあり、秋学期の追加履修に間に合うよう周知を図り  
たいと考えている。該当学年科目である科目Ⅲ（担当：別府調査部長）の第 1 回授業（9/28）にてチ  
ラシ等の資料を配布させていただきたい。

- ・伊勢志摩共生学について。

伊勢市長授業回は例年通り、12月頃内容について打ち合わせをお願いしたい。前年度の内容を踏襲したいと考えているが、要望等あれば可能な範囲で対応させていただく。

審議の結果、異議なく了承された。

### 3. 平成31年度以降COC実施体制について

齋藤教授より説明がなされた。

- ・H31年度以降も、COCで実施している地域志向科目群やCLL活動などの地域活動は継続していくことが決まっており、それにあわせてカリキュラム整備を進めたところである。

#### ①活動圏域の拡張について

- ・文部科学省の補助事業で、3市5町の連携自治体の範囲内で進めているが、今後は少なくとも県内の範囲内で活動範囲を広げていきたい。

9月に開催したシンポジウムのアンケート結果p.5の問8で、「地域と関わる活動の範囲について」お聞きしたところ、回答数は少ない(n=21)が伊勢志摩圏域に特化すべき、広げても三重県南部に特化したほうがよいという結果であった。ただ、これまでも伊賀市、桑名市、尾鷲市ほか県内各市町から活動の申込みもあったので、無理のない範囲で活動圏域を拡張していきたい。

#### ②『伊勢志摩定住自立圏共生学』科目Ⅲ・Ⅳの株式会社三十三総研業務委託について

#### ③その他

- ・これまでCOC事業の中で培ってきた教育の方法や地域活動の仕組みについて整理しながら今後、運営会議の場でお諮りし、提案等いただきながら進めていきたい。

審議の結果、異議なく了承された。

## 【報告】

### 1. COC学修成果評価アンケート集計結果報告

齋藤教授より配付資料（皇學館COC事業報告書 vol.4）に基づき説明がなされた。

#### 科目Ⅰ

（事業報告書 p.121～128）

（設問4）「理解できたか」の問いに対し、

「理解できた」＋「十分理解できた」＋「ほぼ理解できた」＝89%

（設問8）「説明できるようになったか」の問いに対し、

「説明できる」＋「ほぼ説明できる」＝49%

「理解できた」と「説明できる」の回答割合数値が近い方が、真に理解していると捉えられる。年々、「説明できる」割合は増えてきているが、今後も「説明できる」と回答する受講生の割合を増やしていきたい。

- ・記述回答で「県内の他の地域の事例についても講義に取り入れてほしい」という回答もあがっていることから、活動範囲の拡張は今後検討しなくてはならないと考えている。

## 科目Ⅳ

(事業報告書 p.129～135)

(設問4、6)「よく理解できた」25%に対し、「説明できる」13.5%と約半数の割合であった。できる限り同程度の回答割合まで持っていけるようにしたい。

(社会人履修生)「体系的に学べてよかった」「内容は社会人履修に十分である」「単回で受講できるとありがたい」等の意見を頂戴した。

異議なく了解された。

## 2. 第4回本事業取組内容公表シンポジウム開催報告

齋藤教授より配付資料をもとに説明がなされた。

- ・COC 補助事業としては最後のシンポジウムとなるので、ぜひ学生諸君主体で進めてもらいたいということで、ファシリテーターを国史学科2年の服部君に務めてもらった。CLL 活動を通じての失敗を学生たちが披露し、それについてコメンテーターからコメントを頂戴する形で進められた。

(板井准教授から補足説明)

- ・今回学んだ失敗から得られた教訓も学生に発表してもらったが、これらの教訓は来年度以降の CLL 活動のしおりの中に反映させていくことを予定している。
- ・失敗が潜在化してしまうことがわかった。ヒヤリ・ハットを蓄積し、次につなげる仕組みも作っていかなくてはいけない。

## 3. その他

(池山助教より)

昨年までと同様、共生学Ⅰ・Ⅱ優秀レポート(市町賞)の選定を年度末にお願いしたい。

異議なく了解された。

## \*次回日程

次回(H30年度 第4回)運営会議は、

平成30年11月22日(木)18時～ 皇學館大学 9号館 1F(911)にて開催されることが確認された。

以上